



喜多登

嵯峨天皇さまと日本茶

今月二十二日。当宮の主祭神であります嵯峨天皇さまが、弘仁六年(八一五)に滋賀県大津市にあった梵釈寺というお寺で、僧の永忠に奨められて、お茶を飲まれてからちょうど千二百年となります。

別にお茶を飲むぐらい珍しい事では無いじやないかとお思いかと思いますが、日本史の中で、お茶を飲んだという記述があるのは、実はこの時が初見なのです。

近年の研究では、奈良時代には既に日本に渡来していたと考えられますが、それはあくまでも中国産の茶葉だけで、日本国内で栽培されたお茶ではないと考えられています。

記録では延暦二十四年(八〇五)に中国から帰国した最澄が、お茶の種子を比叡山山麓の坂本に植えたとき、それから十年後の弘仁六年になって、恐らくようやく茶の木から茶葉を作れるぐらいに成長したと思われまふ。この嵯峨天皇さまが服されたお茶は、いわば、初めての日本茶であったといえそうです。

そんな嵯峨天皇さまの漢詩に、「詩を吟じては厭わず香茗を搗(つ)くを興に乗じては偏(ひと)りに宜しく雅弾を聴くべし」とあり、この当時のお茶は搗いたものを煎じて飲んでいたようです。

その後、お茶は寺院等で栽培されていましたが、鎌倉時代以降は民衆にも広まり、現在に至っています。近年の外国人観光客には「日本抹茶」というイメージがあるので、そういった日本茶の最初は、実は嵯峨天皇さまからはじまっていた。

ウメ輪紋ウイルス防除のお願い

近年、日本全国で、ウメ輪紋ウイルス(ブルムボックスウイルスPPV)という、梅に感染するウイルスが大きな脅威となっています。このウイルスは人体には影響はありませんが、梅の木が感染すると夏頃の葉っぱに輪紋状の斑があらわれ、梅の実がちゃんと結実しなくなりまふ。ですので、梅干しなどを作られる梅農家にとっては死活問題となります。

このウイルスに感染した梅は、国の植物防疫法に基づき、感染木の周囲三百メートル以内の同種は全て伐採しなければならなりません。

現在のところ、有効な薬剤も無い為、伐採以外に手立てがなく、このウイルスに感染した場合、すなわちその付近から梅の木が全て無くなる事になります。

平成二十一年に東京の青梅市で感染が確認されたのを皮切りに、翌年、大阪の万博公園でも感染が確認されました。そして今年になって関西各所で大規模な発生が相次ぎ、兵庫県伊丹市の緑ヶ丘公園では、四百本あまりもの梅が全て伐採されました。

今のところ、この北区での発生は確認されておりませんが、非常に危険な状態であるといえ、梅田の梅の字の由来になったとされる当宮の紅梅の木も危機感をもっています。

このウイルスは主にアブラムシによって運ばれ拡散します。この四月の防除が非常に重要となつてまいります。ぜひお庭に植えておられる梅の木や、梅の盆栽などをお持ちの方は、この四月に薬剤散布などを施して頂きますようお願い致します。

《参考》防除薬剤など

- ・モスピラン水溶剤(顆粒タイプあり)
- ・オルトランDX(粒剤)
- ・テントウムシ(アブラムシを捕食します)

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

